

一般社団法人 日本医学物理学会
平成 24(2012)年度 第 5 回理事会 議事録(抄)

日時:平成 24(2012)年 9 月 13 日(木)17:00-20:00

場所:つくば国際会議場 401 会議室

出席:遠藤・松本・新保・荒木・小口・奥村・齋藤・榮・西尾・福田・門前(理事)、
金井・福村(監事)、和田・蓑原・赤羽・福士・尾川・豊福(委員長・大会長)、
岡本・乳井(総務委員)

欠席:櫻井(理事)、鬼塚(認定機構)

議題:

1. 第 2 回議事録の訂正
2. 前回(第 4 回)の議事録(案)の確認
3. 新入会員・退会者の承認
4. 第 104、105(、106、107 回)大会の準備状況について
5. 委員会報告
6. 医学物理士認定機構の現状について
7. その他

資料:議案書冊子(資料 1-7 で合本)

席上配布:資料 4(105 大会資料 3 頁)、資料 5-6(防護委員会資料 3 点)

後日電子配布:医学物理士認定機構活動報告

席上配布:一般社団法人日本医学物理学会 学会運営資料集(平成 24 年 9 月)

議事

議事に入る前に遠藤会長より、一般社団法人日本医学物理学会”学会運営資料集”(平成 24 年 9 月)について、趣旨・概要の説明があった。そして、出席者の確認の後、遠藤会長が議長となり開会を宣言し議事に入った。

1. 第 2 回議事録の訂正

第 2 回議事録につき出席者から訂正の要請があったため、訂正版を資料 1 として提示した。これを通読・確認し、確定版として承認した。

2. 前回(第 4 回)議事録(案)の確認

資料 2 に基づき前回理事会(6 月 16 日)の議事録案を通読・確認し、承認した。

3. 新入会員・退会者の承認

資料 3 に基づき、新保庶務理事より 6 月 1 日－8 月 31 日の入退会・資格変更等が報告され、承認した。これにより会員総数は 2,053 名となった。

4. 第 104、105(、106、107 回)大会の準備状況について

<第 104 回大会>

第 104 回大会長より本日無事に開幕したことが報告された。学会として初開催の市民公開講座については、集客について課題を残したものの、質疑は活発で、質的には満足すべきものであったことが報告された。

<第 105 回大会>

資料 4 により第 105 回大会長より準備状況が報告された。

招待予算の増額があり、招待を拡充する方針が説明された。プロシーディングス原稿のテンプレートが示され、使用言語の方針が説明された。

教育講演については実行委員会と教育委員会間で調整のルートを確立することとした。

<第 106 回大会>

第 106 回大会長より口頭で会期・会場・役員の予定が紹介された。

(注)後日以下の通りホームページで告知された。

日時:2013 年 9 月 16 日(月)－ 9 月 18 日(水)

場所:大阪大学コンベンションセンター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1

<第 107 回大会>

第 107 回大会長より、11 月 7 日にキックオフミーティングを開催し、テーマを決定する予定であることが報告された。

5. 委員会報告

<教育委員会>

資料 5-1 により委員長より活動現況が報告された。

委員会の役割分担については9月15日開催の委員会で決定することが報告された。

サマーセミナーはほぼ例年通りの規模で開催、無事終了した旨が報告された。来年のサマーセミナーは開催日が8月29～31日の予定で、開催場所は本年同様に“リゾートホテル阿蘇ふるさと村”でおこなう予定である。

会期中講義のe-learningコンテンツ化を試行することが提案された(引き続き検討することとした)。

<QA/QC委員会>

資料5-2により、委員長より活動現況が報告された。

呼吸性移動対策ガイドラインは英訳済でJRR(Journal of Radiation Research)に投稿予定であることが報告された。

粒子線治療QA/QCガイドラインの第三者的評価については正式の依頼が委員会に達していないことが報告された。

<広報委員会>

資料5-3により、委員長より活動現況が報告された。懸案のホームページのリニューアルについて、委員会の審議過程を報告し、ホームページ構成案と見積が示された。

用語委員長よりCMS(Content management system)対応であるかとの質問あり、現リニューアル案はこれを想定していないことが回答された。議論の結果、CMS対応が然るべしとされ、予算については500,000円を上限目途として進めることとした。なお他も最新のシステムで臨むべきことが指摘された。

<用語委員会>

資料5-4により委員長より活動現況が報告された。

デジタル版用語集について、全体の1割を目標に、用語の抹消・訂正・新規採用を行う方針が示された。

これに対し会長より、冊子版についても10年ごと等適宜のインターバルで刊行された方がよいとの希望が表明された。

<総務委員会>

資料5-5により、委員長よりホームページ上での会告・お知らせに関するルール案が示された。これについて議論の結果、基本を承認し、運用を始めることとした。

<防護委員会>

資料5-6により、委員長より活動現況が報告された。

学会ホームページで公開された

- a. 放射線治療装置における放射化物の管理に関する学会標準 ドラフト
 - b. 粒子線治療施設における放射化物の取扱いに関するガイドライン
- が示された。

<計測委員会>

委員長より、計測委員の増員が諮られ、審議の結果これを承認した。さらに、標準測定法12が上梓され、104大会での即売が好調である旨が報告された。

<編集委員会>

委員長より、機関誌「医学物理」が、昨年度最終号であるVol.31 No.4が先月刊行となったこと、また同号には論文の掲載がないこと、査読中論文が4本あるものの危機的状況であることが報告された。

予て進行していた「医学物理」誌のアーカイブ化については、JSTでバグが発見されたため、11月頃公開見

込との報告があった。

MEDLINE の不具合については、2009 年 2 月号までは検索できることが確認されたことなどが報告された。「医学物理」誌については会長より、原著論文誌から解説等の依頼原稿を主体にした雑誌にするという展望が示された。また、本年度より JBMP 事業となった講習会について、講義内容の本誌掲載を検討すべきことが提起された。「医学物理」Supplement としての講習会資料ならば業績とすることができたが、講習会テキストでは難しいとの指摘を受けたもの。

<国際交流委員会>

委員長より 9 月 14 日の委員会を、新メンバーで開催することが報告された。

<教科書 ad hoc 委員会>

委員長より、7 分冊すべての構成が決まり現在、執筆中であることが報告された。

6. 医学物理士認定機構報告

JSMP 理事を兼ねる JBMP 理事より同機構の活動が報告された。

理事：9 名 監事：2 名 評議員：8 名

医学物理士認定数 637 名、名誉医学物理士 18 名であることが報告された。

本年度の認定試験、認定・更新事業の予定が示された。医学物理士認定試験は、首都大学で 10 月 13 日に開催する予定。

またコース認定事業については、9 月 28 日に医学物理士認定教育コース説明会を開催する予定であることが報告された。

以前の理事会で承諾した同機構の定款については、9 月 17 日開催の同機構評議員会で確定する予定であることが報告された。

会長より、JSMP で議論した事項は概ね着実に実施されているとの見解が示された。

教育委員長より、教育コース説明会については学会ホームページからリンクを張るべきことが指摘され、関係方面に了解を得た上でこれを実施することとした。

7. その他

日本放射線研究連合 (JARR) の JSMP 担当理事より提供された同連合の幹事会議事録 (案) が紹介された。

また庶務理事より他学協会行事の協賛・後援等の状況が報告された。個別の行事については適宜判断すべきことが指摘された。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 20:00 に閉会を宣言して散会した。